

# 【家庭教育支援チーム】

## (1)活動主体(チーム)について

①チーム名 (呼称)	京丹後市峰山地域家庭教育支援チーム (呼称:のびのび倶楽部みねやま)
②活動拠点	京丹後市峰山地域公民館
③活動範囲	峰山中学校区(峰山学園)
④組織体制	___ 9 人 子育てサポーター5人、民生委員1人、支援団体・NPO 法人3人
⑤活動開始年度	平成23年度
⑥問合せ先	(部署・氏名等) 京丹後市教育委員会事務局 生涯学習課 峰山地域公民館 (TEL)0772-69-0661 (E-mail)mineyama-komin @city.kyotango.lg.jp

## (2)活動内容について

①活動形態 (複数チェック可能)	<input checked="" type="checkbox"/> 保護者等への学びの場の提供 <input checked="" type="checkbox"/> 保護者等への地域の居場所づくり <input checked="" type="checkbox"/> アウトリーチ型家庭教育支援(※保護者の居場所に出向いて届ける支援) <input checked="" type="checkbox"/> 自宅に届ける支援(情報提供、相談対応等) <input checked="" type="checkbox"/> 保育所・幼稚園・学校等に届ける支援(情報提供、相談対応等) <input checked="" type="checkbox"/> その他の保護者に届ける支援(情報提供、相談対応等) <input checked="" type="checkbox"/> その他(保護者が集まる機会にあわせ子育て交流会を開催)
②活動対象 (複数チェック可能)	<input checked="" type="checkbox"/> 乳幼児 <input checked="" type="checkbox"/> 小学生(低学年) <input checked="" type="checkbox"/> 小学生(中学年) <input checked="" type="checkbox"/> 小学生(高学年) <input checked="" type="checkbox"/> 中学生 <input checked="" type="checkbox"/> 高校生以上  の子供を持つ保護者に対する活動を実施
③活動内容	【具体的な活動内容】 ● 保育所・幼稚園・小中学校等での子育ておしゃべり交流会(入学説明会時) ● 子育て広場「のびのびルーム」(地区の子育てサロン、子育て支援センターと情報交流をとりながら開催) ● 地区の子育てサロン、子育て支援センターでの「高校生と赤ちゃんのふ

	<p>れあい交流事業」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 小学校での「手紙で結ぶ家族の絆事業」</li> <li>● 中学生の家庭科授業の機会に「家庭教育支援について」考える</li> <li>● 高齢者大学一般講座で「地域の子どもは地域で育てる」講座</li> <li>● 家庭教育支援チームだよりの発行</li> <li>● 家庭教育支援チーム定例会</li> </ul>
<p><b>④活動の成果</b> (活動実績がある 場合)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 子育てについて保護者に考えていただく機会を作ることで、他の親と「子育てについて交流する意義」を感じてもらっている。</li> <li>● 親子で楽しめる体操や遊びについては参加者が多くあり、親子のふれ合い促進とともに親同士の語らいの場としての機能も果たしている。</li> <li>● 子育てサポーターは家庭教育支援チームで活動をしながら、それぞれの地域で子育てサロンを開催していくことで、乳幼児親子が安心して集まれる場所を提供できている。また、子育てサポーターが見守ることで、地域と繋がりながら親子が育ってきている。</li> <li>● 若い世代へのアプローチとして、高校生に焦点を当てた事業を展開している。子育て支援センターに場を提供してもらい、高校生が赤ちゃんとふれあい保護者の方と交流するもので、保護者にも高校にも定着してきている。</li> <li>● 中学生に未来年表を作成してもらい、自分の未来の家庭に意識を持てるよう、小グループでのおしゃべり会を実施できたことで、他の考えを知り、共感共有することで自分の考えを整理しながら未来をより現実的に想像してもらえる機会となった。</li> <li>● 地域で見守る方々には、高齢者大学の講座を利用して、子育ての現状を知り、語り合う機会を作ることで、地域全体で子育てに寄り添い支える機運を高めてもらっている。</li> <li>● 手紙で結ぶ家族の時間が、改めて子どもに向き合ってもらった感想がアンケート結果から多く寄せられた。</li> <li>● 定例会を設定することで事業の充実を図るとともに、地域の中の子育てサポーターとして身近に求められていることを共有し合い、タイムリーに対応できる力量を付けていく。</li> <li>● 今後は地域性を生かし、大企業内での研修の場に出向くことで、日頃、仕事等の関係で、講座や研修に参加できにくい方へ家庭教育の重要性を伝える機会を増やしていく必要を感じている。</li> </ul>
<p><b>⑤活動財源</b> (複数チェック可能)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li><input checked="" type="checkbox"/> 文部科学省補助事業(事業名:地域における家庭教育支援基盤形成事業)</li> <li><input type="checkbox"/> 文部科学省委託事業(事業名: )</li> <li><input type="checkbox"/> 厚生労働省事業(事業名: )</li> <li><input checked="" type="checkbox"/> 地方公共団体単独事業として実施</li> <li><input type="checkbox"/> 特段の予算措置はない(自主的に活動を実施)</li> <li><input type="checkbox"/> その他の支援により活動を実施 ( )</li> </ul>

